６月の園だより

学校法人志賀学園
松の実こども園
令和３年６月１日

青葉若葉の季節となりました。毎年職員室の軒下にセキレイが巣を作ります。卵がかえり、毎日親鳥はエサをくわえて、せっせせっせと頻繁にヒナに運んでいます。人間も鳥も、子を想う親の気持ちに変わりはないのですね。

昨年の今頃を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が解除され、通常保育が始まったばかりでした。今年は、いわき市での感染が聞かれたりもしましたが、園では感染予防対策をとりながら、体操やかけっこ、鉄棒やリレー、野菜の苗植えや虫探しなど、戸外で伸び伸びと本当に充実した日々を送ることができました。そして、この時期は特に、自然と触れ合う絶好の季節だということを実感しております。グリーンカーテンの朝顔やゴーヤの苗を植えるのに、プランターの土の入れ替えをしていると、チューリップの球根と一緒に白い幼虫が数匹現れました。さくら組のＳ君が幼虫をじっくりと眺めながら「これは、カブト虫でなくて、クワガタでもなくて、コガネ虫かな？」と言っていました。みな同じように見える幼虫ですが、虫に詳しいＳ君には何となく違いが分かるようです。早速飼育箱で飼うことにして、これから何に成長するか子どもたちと見守り、楽しみにしていきたいと思います。

さて先日、福島県幼児教育研究会による WEB 研修がありました。『保育の質の向上を図るために～主体的学び、対話的学び、深い学びへの追及～』という研究主題で、「遊びの充実について」をテーマに、東京都市大学名誉教授で大妻女子大学教授の小川清美先生によるご講義をいただきました。小川先生は、“自分自身がやりたい！やって良かった！と思える活動が真の学びにつながります。それには、子どもがやってみたい時にやれる環境作りが大切です。”と、おっしゃっていました。特に０・１・２歳児は禁止ばかりしていると、何をして良いか分からない、自分の考えが分からない。大人の指示がないと動けない子になってしまいかねない、ということでした。すべり台は「上から滑るもの」というのは大人の感覚ですが、乳幼児にとっては下からハイハイで上って行こうとします。その子自身がしていることが楽しい遊びになり、手足の運動になり、達成感につながります。それには、大人が側に付いて危険のないように見守り、ヨイショヨイショと声を掛けたり、出来た時にパチパチと手を叩き賛同したりして表現してあげることも大切ですね。その活動が、健康な心と体、自立心、豊かな感性と表現など、「幼児期の終わりまでに育って欲しい１０の姿」につながっていくということでした。（勿論、ルールが分かる年齢になりましたら順番を守り滑ることができるようになってきます。）

これから、梅雨の時期、室内で過ごすことが多くなってきます。引き続き、室内遊びを充実させ、子どもたちがやってみたい時にやれる環境を整えて、やって良かった！と思える楽しいこども園生活を送っていきたいと思います。